

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです。

リスクを取る人、取らない人 できる社員は、「一か八かの勝負」はしない！

本当にできる社員は、リスクを取りません。なぜなら、その必要がないからです。仮に、一か八かのリスクを取らなければならない事態に陥ったなら、そういう状況を引き起こしてしまったこと自体が問題といえます。「リスクを取る」という選択肢を選ばざるを得なくなる前に、前もって手を打つのが本来あるべき姿です。リスクは回避できます。「決断」を迫られるまで先延ばしするのではなく、小さな「判断」をどんどん下して、積み重ねていけば、最終的に大きな目的を達成することにつながります。

私自身、トリンプの社長を務めていたころ、大きな決断をした覚えも、リスクを取ったこともありませんでした。何十億円というお金が動いても、私にとっては判断の一つでしかありませんでしたが、その他の人にとっては大きな決断に見えたかもしれません。判断を疎かにしている人ほど、会社が大きなリスクを抱え込んだように思えたでしょう。そういう人ほど、単に一か八かのリスクを取りに行くことになり、必ずどこかの時点で失敗します。どの会社にも一人か二人、「この人に任せれば何とかしてくれる」という信頼を一身に集める人がいるものです。そういう人は間違いなく一流であり、リスクを取らない人です。周りから見ればリスクを取っているように見えますが、必ず先に手を打って判断を積み重ねているから、トラブルもなく、仕事もきちんとなさえます。

昨今、「TPP」という言葉が聞かれるようになりました。これは「環太平洋戦略的経済連携協定」の略で、簡単に説明しますと、太平洋周辺の国々の間で、関税などを取り払って自由貿易圏を作ることを目指しています。「自由」という言葉から一見するといいイメージを持ちそうですが、実際に関税をすべて取り払うとなれば、日本は譲歩しなければならないことが山ほどあります。コンニャクもその一つです。実は、輸入品のコンニャクには以前、最大で 1700 パーセントの関税がかかっていたそうで、海外製品の価格が上がった今でも 350 パーセントなのだそうです。もし今、TPP などによって自由貿易になれば、海外からものすごく安いコンニャクが次々に入ってくるでしょう。米もそうです。日本人は、世界で一番高い米を買っています。自由貿易になり、二期作、三期作が可能な東南アジアなどへ日本米を持って行ってつくれば、はるかに安い米が次々に入ってくるはずですが、だから外国でつくればいい、などといったものではありません。日本の農業を衰退させるのはよくないことですし、安全保障という問題から考えれば日本で作るべきです。ただ、今まで日本では関税に守られた状況の中で、安くつくり売るための努力がどれだけなされてきたのでしょうか。農地法、農協のあり方、株式会社参入など手を打たなければいけない課題が手つかずのままになっていたところに、TPP に参加せざるを得ない状況になったからといって急に「決断」を迫られれば、その結果、おそらく大量の血を流すことになるでしょう。日本の農業は、はるか昔からの様々な人の思惑や農地法の問題などが絡み、幾重にも積み重なったまま放置されてきました。大きな問題に見えますが、一つひとつ問題を解きほぐして小さな判断を繰り返していけば、解決できないものではなかったはずですが。

問題を放置すると、他の問題とも絡み合っ余計にややこしい事態になるのは、会社でも同じだし、個人でも同じです。問題は小さなうちに一つずつ解決していくべきなのです。どんな小さな判断も決して先送りにしないでください。その意識を持っていれば、リスクを取る機会などあなたの目の前には起こりません。

問題を放置するとどうなっていくと言っていますか？

( )